

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	平成28年度公営住宅(弥永その2地区)新築工事	階数	地上6F		
建設地	福岡市南区弥永団地	構造	RC造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	120人		
地域区分		年間使用時間	8,760時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	1900年1月 予定	評価の実施日	2016年5月30日		
敷地面積	4,625 m <sup>2</sup>	作成者	松本 拓也		
建築面積	605 m <sup>2</sup>	確認日	2016年5月30日		
延床面積	2,816 m <sup>2</sup>	確認者	定森淳一		

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	184 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )
②建築物の取組み	63%
③上記+②以外の	63%
④上記+	63%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.4

音環境	2.8
温熱環境	3.0
光・視環境	3.8
空気質環境	4.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.6

機能性	2.2
耐用性	2.9
対応性	2.8

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.8
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.7

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.4
地域環境	3.0
周辺環境	2.7

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ・室内環境、敷地内環境、敷地外環境に配慮を行っている。 ・省エネルギー性能に配慮している。		
<b>Q1 室内環境</b> ・住居部の光・視環境への配慮がされている。 ・シックハウス対策が計画されていて、良質な室内環境の配慮がされている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・居室の天井高さを十分に取り、快適な性能に配慮している。 ・給排水配管等は良質な素材を採用し、永く使用できるように配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・居住者及び周辺地域に配慮した緑地計画を適切に行っている。 ・落葉樹を植栽して、季節の変化が感じられるように配慮されている。
<b>LR1 エネルギー</b> ・LED照明等の高効率設備機器を採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型水栓、節水型便器の採用など、節水に配慮している。 ・リサイクル材の使用をして再資源の活用へ貢献している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・敷地内に適切な駐輪場及び駐車場の確保をして交通負荷抑制に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される